星屑

2024年11月号

No. 596

雁回山に沈む紫金山・アトラス彗星　(C/2023 A3)

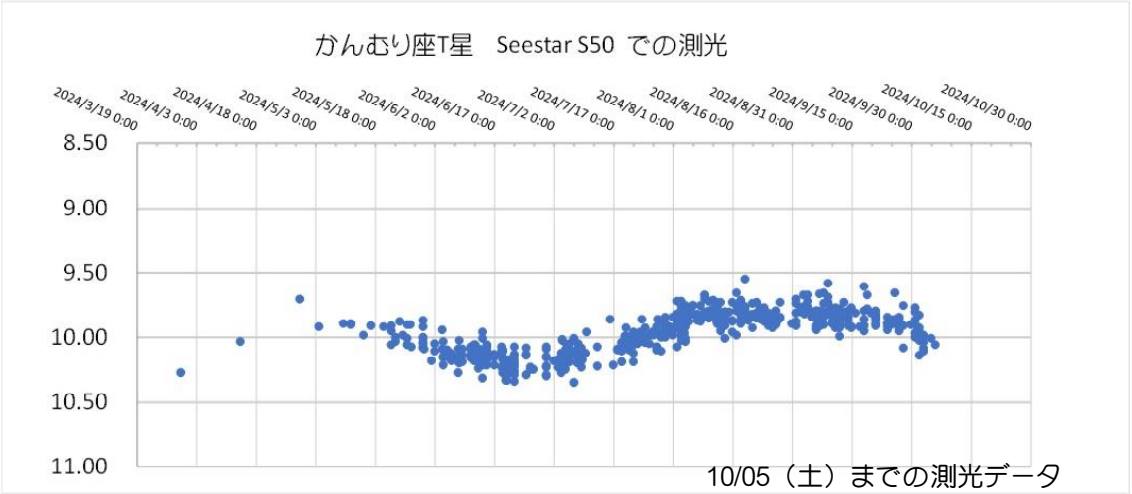
2024/10/14 18:38:33

85mmf1.4→2.8 ISO1600 2秒

がんばるばい　熊本！　**熊本県民天文台**

爆発はいつ？ かんむり座T星 の 光度変化　Seestarによる測光

白色矮星と巨星が回りあうことによる周期的な光度変化が捉えられています



上：「かんむり座T星の爆発を監視しよう!」キャンペーン参加者による測光値で作成

秋雨前線が日本列島に沿うように連なり晴れない日が多くなっています。かんむり座T星観測の休止期（太陽に近くて測光観測ができない期間）が近づいていますので、少しやきもきしているところです。10月上旬は光度が10等ほどに下がっているようです。

9/14(土)、 夕方、雲のスキマに青空

開台しましたが来台者なし、かんむり座T星・紫金山−アトラス彗星の観測情報伝達

夕立が降ったあと、あちこち雲のスキマには青空が見えました。それで、いつもどおりに開台準備をして、主鏡冷却ファンを作動させました。

でも、来台者はありませんでした。「夕立が降った」時点で諦めてしまったのでしょうか？来台者を待っている間に運営ボランティアのS氏が来台されたので、かんむり座T星や紫金山−アトラス彗星などについての話題で談笑。見つけ方や観察・撮影の方法などを説明しました。紫金山アトラス彗星は崩壊を免れたようで、9月下旬～10月上旬の明け方、そして10月下以降の夕空で観察や撮影ができそうな気配、期待が高まっています。

9/21(土)、雨の予報だったけど開台、1組1名

古墳公園内で犬を散歩させていた方、「次回は犬を連れずに来ます」とのこと

今夜は「雨」という予報でしたが、夕方市内方向は青空だったので開台しました。

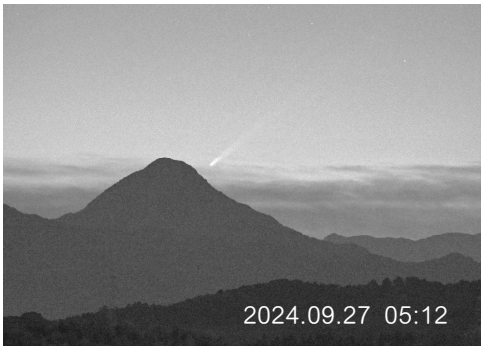
薄暗くなりかけた頃犬を連れて散歩中の方が来台。「誰でも星を見られるのですか?」と質問されたので、「毎週土曜日の夜に一般公開をしています」「今は、土星の環が串団子のように細く見えます」と説明。すると、「今日は曇っていて星が見えそうにないので、次回、

犬を連れずにぜひ来たいです」とのこと。主鏡の冷却を1時間ほどやって公開を終了。
ボランティアのS氏を含めてスタッフは2名でした。

9月下旬　各自で
紫金山－アトラス彗星を 撮影

肉眼では見えにくかったが写真には良く写った!

※ 夜明け前、明るくなっていく空に
あっという間に溶け込んでいった



9/28(土)、一般公開、 2組5名

曇りのち晴れ、来台者は少なかったけど賑やかに質疑応答が続きました

40cm望遠鏡では、アークトゥルス・土星・ベガ・アルタイル・M13などを観察。

雲が広がっていてたくさんの星は見えないので、Seestarで撮影した画像を使って解説。12インチのタブレットで来台者と一緒に画像を見ながら解説すると理解しやすいからでしょうか、とても興味が湧くようで次々に質問が出てきます。それに刺激されてこちらもつい深みにはまって解説を展開。いくつかのM天体・月・かんむり座T星・紫金山－アトラス彗星など、話題が広がりました。

来台者の数が少なかったのでほぼ貸切状態でたっぷり楽しんでくださったようです。

運営スタッフは4名でした。

10/5(土)、一般公開、 1組2名、 スタッフも2名

雨が降りそうな曇り空、それでも熱心な来台者、「とにかく来たかった!」とのこと
熱心にたくさんの質問があり、星や宇宙への興味と関心の深さにビックリ! でした

これからの予定

☆ 10/23（水）　熊本支援学校　「星空観察会」
豊野少年自然の家で開催　　秋の星座と土星を観察

☆ 11/10（日）　田迎西公民館　「星空観察会」
18:00～　田迎西公民館で開催　　月と土星を観察

星屑

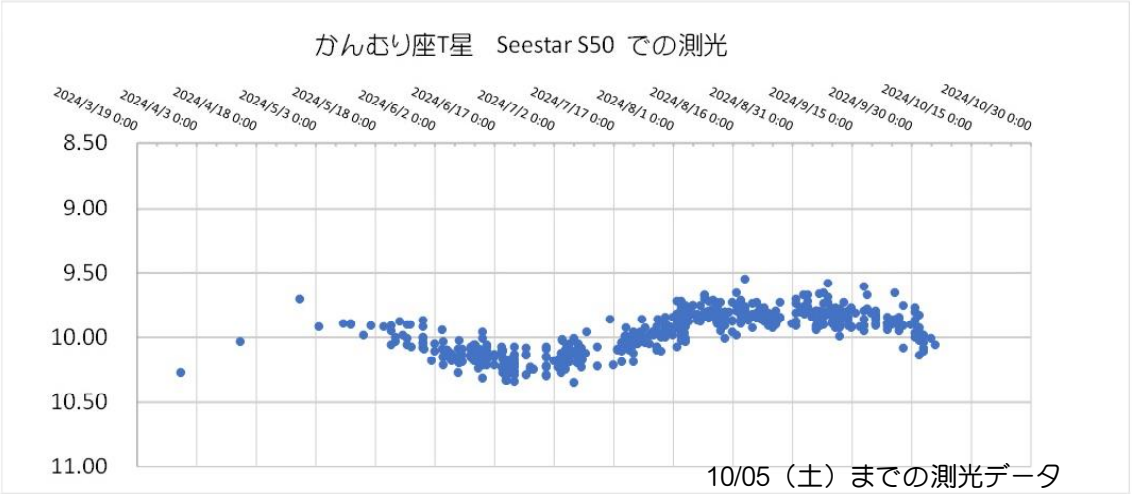
2024年11月号
No.596

雁回山に沈む紫金山・アトラス彗星　(C/2023 A3)
2024/10/14 18:42
85mmf1.4→2.8 ISO1600 2秒

がんばるばい　熊本！　**熊本県民天文台**

爆発はいつ？ かんむり座T星 の 光度変化　Seestarによる測光

白色矮星と巨星が回りあうことによる周期的な光度変化が捉えられています



上：「かんむり座T星の爆発を監視しよう!」キャンペーン参加者による測光値で作成

秋雨前線が日本列島に沿うように連なり晴れない日が多くなっています。かんむり座T星観測の休止期（太陽に近くて測光観測ができない期間）が近づいていますので、少しやきもきしているところです。10月上旬は光度が10等ほどに下がっているようです。

9/14(土)、 夕方、雲のスキマに青空

開台しましたが来台者なし、かんむり座T星・紫金山−アトラス彗星の観測情報伝達

夕立が降ったあと、あちこち雲のスキマには青空が見えました。それで、いつもどおりに開台準備をして、主鏡冷却ファンを作動させました。

でも、来台者はありませんでした。「夕立が降った」時点で諦めてしまったのでしょうか？来台者を待っている間に運営ボランティアのS氏が来台されたので、かんむり座T星や紫金山−アトラス彗星などについての話題で談笑。見つけ方や観察・撮影の方法などを説明しました。紫金山アトラス彗星は崩壊を免れたようで、9月下旬～10月上旬の明け方、そして10月下以降の夕空で観察や撮影ができそうな気配、期待が高まっています。

9/21(土)、雨の予報だったけど開台、1組1名

古墳公園内で犬を散歩させていた方、「次回は犬を連れずに来ます」とのこと

今夜は「雨」という予報でしたが、夕方市内方向は青空だったので開台しました。

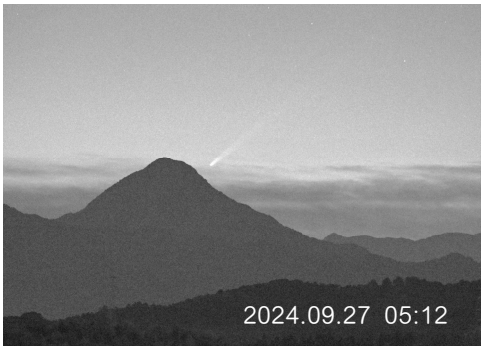
薄暗くなりかけた頃犬を連れて散歩中の方が来台。「誰でも星を見られるのですか?」と質問されたので、「毎週土曜日の夜に一般公開をしています」「今は、土星の環が串団子のように細く見えます」と説明。すると、「今日は曇っていて星が見えそうにないので、次回、

犬を連れずにぜひ来たいです」とのこと。主鏡の冷却を1時間ほどやって公開を終了。
ボランティアのS氏を含めてスタッフは2名でした。

9月下旬　各自で
紫金山－アトラス彗星を 撮影

肉眼では見えにくかったが写真には良く写った!

※ 夜明け前、明るくなっていく空に
あっという間に溶け込んでいった



9/28(土)、一般公開、 2組5名

曇りのち晴れ、来台者は少なかったけど賑やかに質疑応答が続きました

40cm望遠鏡では、アークトゥルス・土星・ベガ・アルタイル・M13などを観察。

雲が広がっていてたくさんの星は見えないので、Seestarで撮影した画像を使って解説。12インチのタブレットで来台者と一緒に画像を見ながら解説すると理解しやすいからでしょうか、とても興味が湧くようで次々に質問が出てきます。それに刺激されてこちらもつい深みにはまって解説を展開。いくつかのM天体・月・かんむり座T星・紫金山－アトラス彗星など、話題が広がりました。

来台者の数が少なかったのでほぼ貸切状態でたっぷり楽しんでくださったようです。

運営スタッフは4名でした。

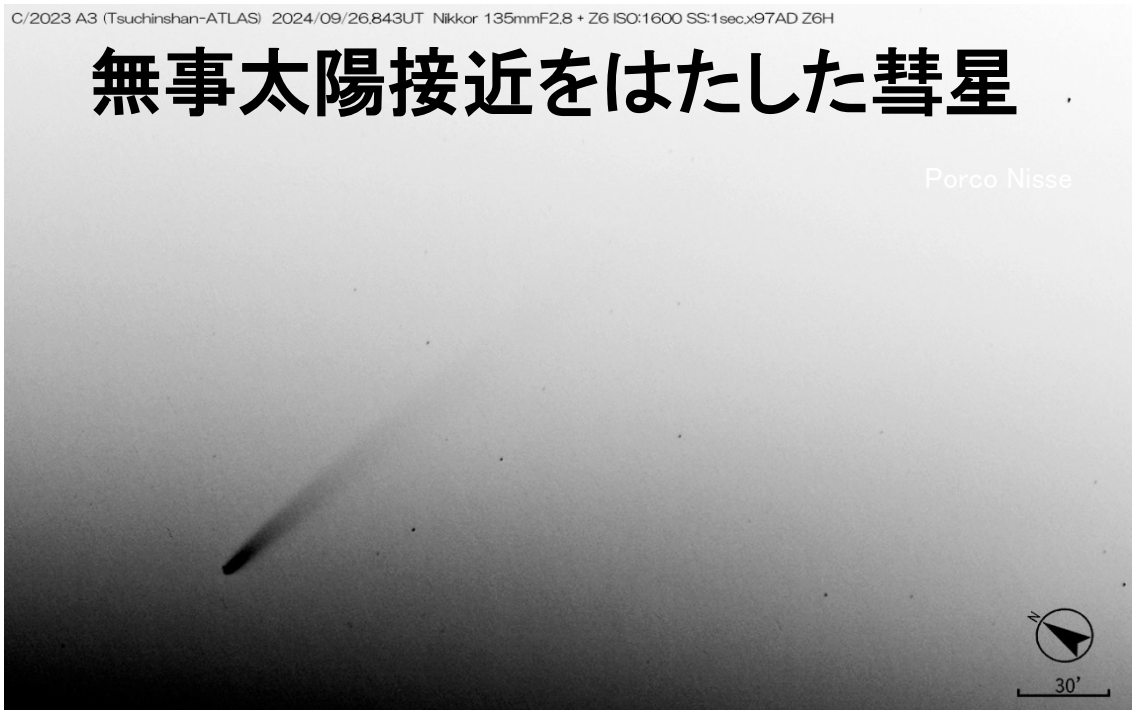
10/5(土)、一般公開、 1組2名、 スタッフも2名

雨が降りそうな曇り空、それでも熱心な来台者、「とにかく来たかった!」とのこと
熱心にたくさんの質問があり、星や宇宙への興味と関心の深さにビックリ! でした

これからの予定

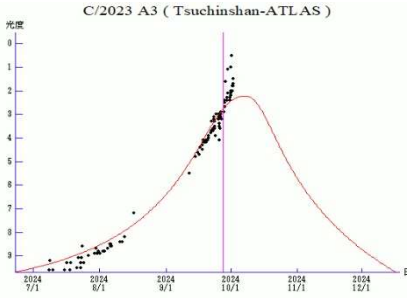
☆ 10/23（水）　熊本支援学校　「星空観察会」
豊野少年自然の家で開催　　秋の星座と土星を観察

☆ 11/10（日）　田迎西公民館　「星空観察会」
18:00～　田迎西公民館で開催　　月と土星を観察



無事太陽接近をはたした彗星

★ C/2023 A3（Tsuchinshanー ATLAS）



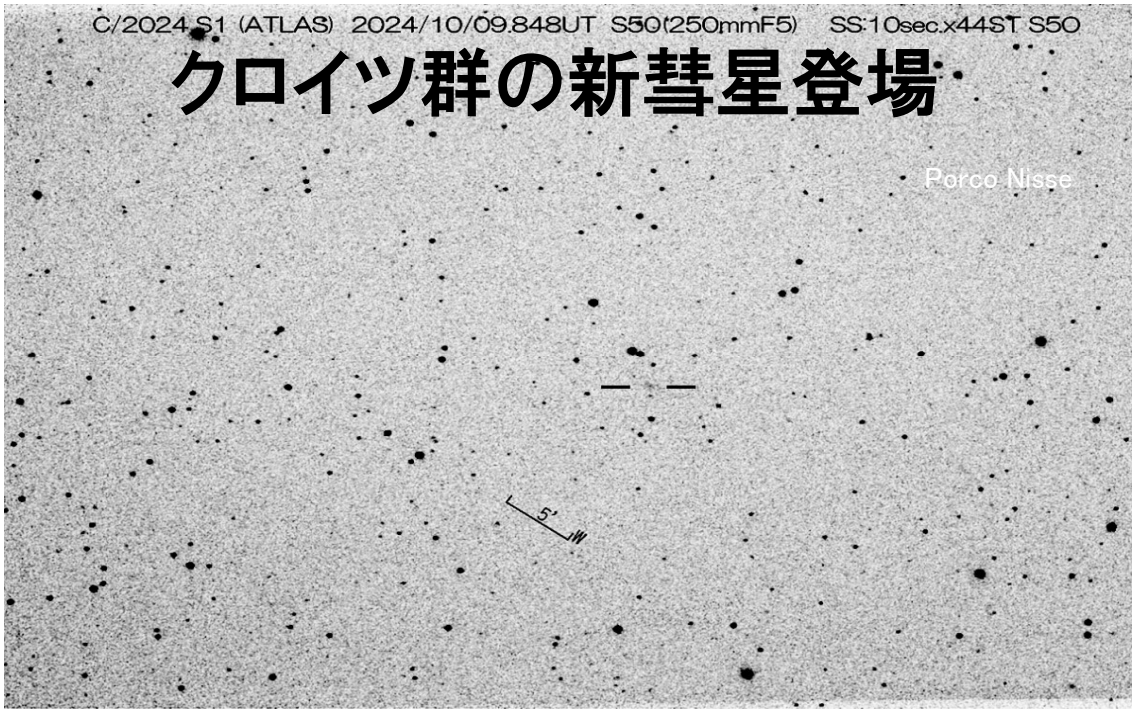
崩壊するのではないかと危惧されたこの彗星は9月下旬に太陽からいったん離れて夜明け前の東天で観測された。このころはまだ南半球の方が観測条件が良かったが、国内でも厳しい観測条件の中各地から観測が報告された。0.4auの近日点通過時の姿が観測できる彗星は多くはないので早起きする価値はあっただろう。

東天に低く見えるので、天文台の40cmRCでは樹木が邪魔で見えないので、我が家から近い花岡山山頂で観測を試みた。どうせ薄明中の観測になるので、熊本市の光害も相殺されると思ってだ。異常に暑い今年の九月、昼は晴れても夜は曇るパターンでなかなか見る機会がない。明け方の初見は9月24日だった。それから25·27·29日10月1日とみることができた。光度はどんどん増しているが比較星がとれないのと濁った低空の影響による減光が激しく測定はままならなかった。135mmレンズの写野内の星のどれよりも明るいのは確かだ。。

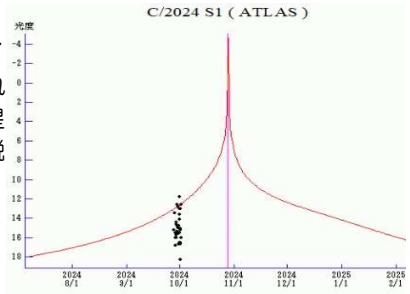
彗星は10日ころから夕空で再び観測できるはずだ。原稿執筆時点でSTEREO探査機やSWAN画像では明るく成長した姿が記録されている。このままの状態で前方散乱効果が加わるとさらに明るくなると期待される。西空に見える彗星の姿に期待できる‥この記事がお手元に届くころにはその答えがでているはず‥。日暮れが早い秋、まだ寒い季節ではないのでゆっくり西空の彗星を堪能してほしい。

▼ 9月25日

▼ 10月1日 月とC/2023 A3彗星



★ C/2024 S1（ATLAS）



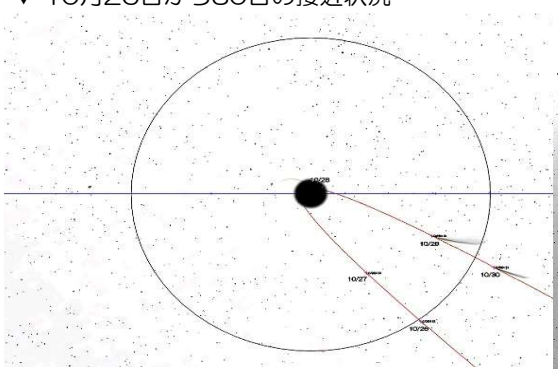
9月27日、ハワイ・ハレアカラで行われているATLASサーベイで発見された天体はすぐにクロイツ群の彗星ではないかと指摘された。クロイツ群、そう、それは1965年秋に出現した池谷ー関彗星の属する群れだ。近日点通過を10月28日にすると現在の動きが説明できるのだ。ということで、この天体は10月1日発行のMPEC 2024-T22でC/2024 S1となって公表された。

10月28日ころの太陽接近状況を下左図に示す。図中の円はSOHO探査機のコロナグラフC3の写野だ。59年前にはなかった宇宙からの目が今はある。天気に左右されずにこの彗星のクライマックス・シーンを見られる‥ありがたい時代になったものだ。10月9日、既にSeestarS50の射程に入ってた。

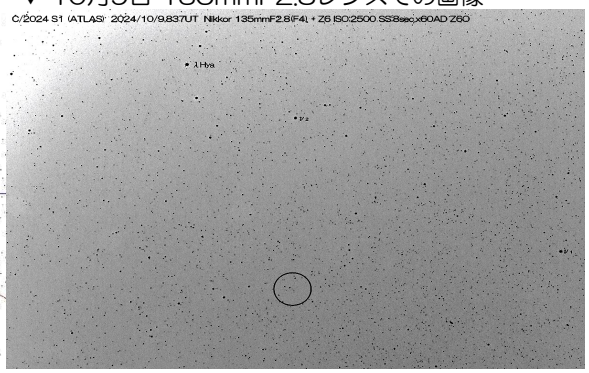
右図は吉田誠一氏がHPに掲載したこの彗星の光度予報図だ。絶対等級が12.0等でlog rの係数は8.0とした光度式で、最大光度は-4等に達するとされる。もちろん、この光度は太陽最接近時の光度で地上から観測できるわけではない。SOHO探査機の画面で盛大にサチった彗星像をみることになるだろう。

太陽から離れた11月1日の日の出前30分で高度はたったの3.6度で光度は7等だ。日の出30分前の高度は2日5.3度、3日7.05度、4日8.6度、5日10度となる。11月上旬が最大の見ごろになる。願わくばC/1965 S1の再来のような長い尾を見せる彗星とならん。

▼ 10月26日から30日の接近状況



▼ 10月9日 135mmF2.8レンズでの画像



ちょっと一服

Poem & Illustration

やっと秋らしい気候になってきましたね。秋雨前線が雨をもたらしてくれるのはありがたいのですが、雨にならなくて雲だらけの夜というのはちょっと。

９月１７日の中秋の名月は美しかったのですが､帰宅したときには､もうかなり高く､撮影はしませんでした。すぐ近くの土星は月の明るさに負けて全く見えないのですが、月を指で隠すと見えてくるのが面白くて、しばらく楽しんでみました。１０月６日の細い月と金星のツーショットは残念ながら、雲に阻まれました。１１月４日５日に再チャレンジです。

さて、金星は相変わらず南西の低空。その西空に、１２日から紫金山・アトラス彗星が見えてくるとのこと。朝の彗星は見損ないましたが、夕空ならばお天気を見ながら観望にチャレンジできますね。とはいえ超低空なので、見えるかなあ…

みずがめ座付近の土星はまだまだ観望の好機。おうし座付近の木星と、ふたご座からかに座に移る火星は、真夜中ごろに姿を見せ、冬の一等星と共に輝いています。

今月の一枚は、１０月９日に日付が変わっての東天。木星の明るさが目立ちますね。

季節

コオロギの鳴き声にまみれた夜露が
夏の名残の白鳥のしっぽで
星をまき散らしていた

夏の終わりを告げる曼殊沙華が
やっと
真っ赤な火花を出し始めたというのに

惑星たちを閉じ込めた冬のダイヤモンドが
煌びやかに存在を主張する
天頂の秋など気にも留めず

凍り付くことを忘れた昴は
離れていく木星を引き留めようと手招きしている
春へ進もうとする火星を横目に

たくさんの水辺を抱えて
秋の神話は　ただただ静かに
コオロギの鳴き声に耳を傾ける
零れ落ちる季節を
ありったけの指で掬い取りながら

2024年9月の県民天文台
～運営日誌より～

開台率　　４日／４日＝１００％　　総開台日数　　５日
一般来台者数　１７名　　会員来台数　１１名

日付	天気	担当運営	来台数	記　事
7日(土)	曇り	艶島 杉山	3組 9名	夕方尼が不利そうな雲が広がったけど、次第に雲は消える等予想して開台。40cmでは月、ﾍﾞｶﾞタブレットでSeestar撮影の画像を使い解説「天の川」と「太陽系」天の川の暗黒星雲、星の誕生と死、かんむり座T星の話題、C/2023A3の話題などで21:15まで楽しんでいただきました。
8日(日)	晴れ	艶島	2名	横浜から来た孫に土星などを見せた。 40cm　ｱｰｸﾄｩﾙｽ、ﾍﾞｶﾞ、土星、M27,M31 Seestar　T-CrB撮影
14日(土)	曇り	艶島 杉山	なし	夕立のあと雲間に青空が見えるので開台　しかし来台なし　かんむり座T星の探し方　C/2023A3彗星がいつ頃どこに見えるかなどを説明
21日(土)	曇り	艶島 杉山	1名	雨の予報だったけど夕方熊本市内方向に青空で開台しました。犬を連れて散歩中の方が来台。土曜日の晴れた夜に開台しています。今は土星の輪が細く串団子のように見えますと説明。次回、犬を連れずに是非来たいですとのこと。主鏡の冷却を一時間やって終了。19:50
28日(土)	曇り ～晴れ	艶島 中島 髙田 杉山	2組 5名	ｱｰｸﾄｩﾙｽ、土星、ﾍﾞｶﾞ、ｱﾙﾀｲﾙ、M13 Seestarで撮影した画像を使って解説 M天体、月、かんむり座T、C/2023A3など

彗星騒ぎで寝不足気味！！

Hige

9月末から、いよいよ紫金山・アトラス彗星がよく見えるようになってきた。これだけ騒ぎになっているので、是非ともカメラでとらえたい。

しかし、色々と調べてみると我が家の屋上天文台では、木が邪魔をして朝も夕方もどちらも観測不可能だということが分かった。そこで、近所で撮影できそうな場所を検討してみた。いつも明け方の彗星を撮影するポイントがあるので、月の出を見ながら検討してみると、中々いい感じだということが分かった。ちょうど仲秋の名月だったので、撮影してみた。ほぼ、このあたりに彗星が登ってくるので、この場所で撮影することにした。

甲佐岳に昇る仲秋の名月

こうして、撮影場所は家から車で3分ほどのところに決まったのだが、次に考えたのが撮影機材だ。朝4時過ぎに起き出して、準備して撮影するのでなるべく簡単なものがいいと考えた。そこで、カメラはキャノン６Dを2台。レンズは古いトキナーAT-X300mmf2.8と標準ズームとした。300mmはビクセンのSP赤道儀に載せて自動ガイド。標準ズームは固定撮影とすることに。一式を夜の中に車に積んでおいて、朝は体一つで出発だ。

最初のチャンスは9月26日にやってきた。朝起きると透明度がよくしっかりと晴れていた。急いで車に乗って出ようとするのだが、そんなときに限って猫が起き出してくる。おやつをやってごまかして、何とか出発した。観測地について、車を光除けにしながら機材の組み立てを行う。5分ほどで完了。カメラを向けて彗星が昇ってくるのを待った。時間を見ながら、撮影開始。5時過ぎには尾が昇ってきて、300mmでも撮影開始。中々いい感じに撮影できて、満足して帰宅した。帰宅後に急いで処理をしてブログにアップした。ついでに、NHKのローカル番組にも写真を送っておいた。あとで放送されて、結構見ている人が多いのだと感心した。

その後、27，29，30日と撮影し、最後は10月1日だった。日ごとに尾が伸びて明るくなっていく様子が分かる。尾が昇ってくるのが肉眼でも見えるほどだ。双眼鏡ではきれいに伸びる尾がしっかりと分かった。

9 月 30 日

さて、この原稿を書いている10月9日現在、夕方の彗星の姿は撮影できない。明日以降次第に見えてくるはずだが、さてどうだろうか？SOHOのLASCO　C3の画像ではとても明るくなっている様子が見えている。南半球の画像を見ると期待が膨らむが、あんまり期待しすぎるとぽしゃるという彗星あるあるが怖いな。

Ｂ５のたわごと

いや～、９月は本当に暑かったですね。平年の９月の平均気温は25.2℃ですが、先月の平均は29.1℃と、４℃も高かったそう。お陰で彼岸花の芽が出てこず、家の彼岸花は５日にやっと花芽が出ました。小国の方では９月前半には咲いたと教えてもらっていたので、暑さで枯れた？と思ってましたよ。植物にも過酷な夏だったんですね。野菜が高い訳です。お米も高いままですし、上がらないのは給与だけですなぁ。さて、Ｃ／２０２３Ａ３紫金山・アトラス彗星には、期待を裏切らない明るさになってほしいですね。

☆１１月の天文現象＆行事☆

１日（金）　新月（２１：４７）

２日（土）　ケンタウルス座Ｔ星が極大（5.6～8.4等　周期181日）

５日（火）　細い月と金星が並ぶ

７日（木）　立冬（りっとう・・・ 冬の始まりで、これより次第に冷気深くなる）

８日（金）　月面Ｘが見える（２２：０３）

９日（土）　上弦（１４：５５）　　トークアバウト（２０：００～　変更の場合あり）

１１日（月）　月と土星が接近

１２日（火）　おうし座北流星群が極大

１４日（木）　月の距離が最近（360109km）

１６日（土）　満月（０６：２９）　水星が東方最大離角（17:09　-0.3等　視直径6.6″）

１７日（日）　天王星が衝（13:14　5.6等　視直径3.8″）　　しし座流星群が極大

２０日（水）　明け方、月と火星が接近

２２日（金）　小雪（しょうせつ・・・ 寒気つのり、雨凍って雪となるという意味）

２３日（土）　さんかく座Ｒ星が極大（5.4～12.6等　周期267日）　下弦（１０：２８）

２６日（火）　月の距離が最遠（405314km）

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌　「星屑」　2024年11月号　通巻596号
発行所　　熊本県民天文台事務局　　〒８６１－４２２６
熊本県熊本市南区城南町塚原２０１６番地　　熊本県民天文台
ＴＥＬ　　０９６４－２８－６０６０
振替口座　０１７００－５－１０５６９７
ＮＰＯ熊本県民天文台事務局
天文台ホームページ http://www.kcao.jp/　　メールアドレス　astro@kcao.jp
メーリングリストの加入申し込み受付中　kcaohige2003@yahoo.co.jp 中島まで

ちょっと一服

Poem & Illustration

やっと秋らしい気候になってきましたね。秋雨前線が雨をもたらしてくれるのはありがたいのですが、雨にならなくて雲だらけの夜というのはちょっと。

９月１７日の中秋の名月は美しかったのですが､帰宅したときには､もうかなり高く､撮影はしませんでした。すぐ近くの土星は月の明るさに負けて全く見えないのですが、月を指で隠すと見えてくるのが面白くて、しばらく楽しんでみました。１０月６日の細い月と金星のツーショットは残念ながら、雲に阻まれました。１１月４日５日に再チャレンジです。

さて、金星は相変わらず南西の低空。その西空に、１２日から紫金山・アトラス彗星が見えてくるとのこと。朝の彗星は見損ないましたが、夕空ならばお天気を見ながら観望にチャレンジできますね。とはいえ超低空なので、見えるかなあ…

みずがめ座付近の土星はまだまだ観望の好機。おうし座付近の木星と、ふたご座からかに座に移る火星は、真夜中ごろに姿を見せ、冬の一等星と共に輝いています。

今月の一枚は、１０月９日に日付が変わっての東天。木星の明るさが目立ちますね。

季節

コオロギの鳴き声にまみれた夜露が
夏の名残の白鳥のしっぽで
星をまき散らしていた

夏の終わりを告げる曼殊沙華が
やっと
真っ赤な火花を出し始めたというのに

惑星たちを閉じ込めた冬のダイヤモンドが
煌びやかに存在を主張する
天頂の秋など気にも留めず

凍り付くことを忘れた昴は
離れていく木星を引き留めようと手招きしている
春へ進もうとする火星を横目に

たくさんの水辺を抱えて
秋の神話は　ただただ静かに
コオロギの鳴き声に耳を傾ける
零れ落ちる季節を
ありったけの指で掬い取りながら

2024年9月の県民天文台
～運営日誌より～

開台率　　４日／４日＝１００％　　総開台日数　　５日
一般来台者数　１７名　　会員来台数　１１名

日付	天気	担当運営	来台数	記　事
7日(土)	曇り	艶島 杉山	3組 9名	夕方尼が不利そうな雲が広がったけど、次第に雲は消える等予想して開台。40cmでは月、ﾍﾞｶﾞタブレットでSeestar撮影の画像を使い解説「天の川」と「太陽系」天の川の暗黒星雲、星の誕生と死、かんむり座T星の話題、C/2023A3の話題などで21:15まで楽しんでいただきました。
8日(日)	晴れ	艶島	2名	横浜から来た孫に土星などを見せた。 40cm　ｱｰｸﾄｩﾙｽ、ﾍﾞｶﾞ、土星、M27,M31 Seestar　T-CrB撮影
14日(土)	曇り	艶島 杉山	なし	夕立のあと雲間に青空が見えるので開台　しかし来台なし　かんむり座T星の探し方　C/2023A3彗星がいつ頃どこに見えるかなどを説明
21日(土)	曇り	艶島 杉山	1名	雨の予報だったけど夕方熊本市内方向に青空で開台しました。犬を連れて散歩中の方が来台。土曜日の晴れた夜に開台しています。今は土星の輪が細く串団子のように見えますと説明。次回、犬を連れずに是非来たいですとのこと。主鏡の冷却を一時間やって終了。19:50
28日(土)	曇り ～晴れ	艶島 中島 髙田 杉山	2組 5名	ｱｰｸﾄｩﾙｽ、土星、ﾍﾞｶﾞ、ｱﾙﾀｲﾙ、M13 Seestarで撮影した画像を使って解説 M天体、月、かんむり座T、C/2023A3など

彗星騒ぎで寝不足気味！！

Hige

9月末から、いよいよ紫金山・アトラス彗星がよく見えるようになってきた。これだけ騒ぎになっているので、是非ともカメラでとらえたい。

しかし、色々と調べてみると我が家の屋上天文台では、木が邪魔をして朝も夕方もどちらも観測不可能だということが分かった。そこで、近所で撮影できそうな場所を検討してみた。いつも明け方の彗星を撮影するポイントがあるので、月の出を見ながら検討してみると、中々いい感じだということが分かった。ちょうど仲秋の名月だったので、撮影してみた。ほぼ、このあたりに彗星が登ってくるので、この場所で撮影することにした。

甲佐岳に昇る仲秋の名月

こうして、撮影場所は家から車で3分ほどのところに決まったのだが、次に考えたのが撮影機材だ。朝4時過ぎに起き出して、準備して撮影するのでなるべく簡単なものがいいと考えた。そこで、カメラはキャノン６Dを2台。レンズは古いトキナーAT-X300mmf2.8と標準ズームとした。300mmはビクセンのSP赤道儀に載せて自動ガイド。標準ズームは固定撮影とすることに。一式を夜の中に車に積んでおいて、朝は体一つで出発だ。

最初のチャンスは9月26日にやってきた。朝起きると透明度がよくしっかりと晴れていた。急いで車に乗って出ようとするのだが、そんなときに限って猫が起き出してくる。おやつをやってごまかして、何とか出発した。観測地について、車を光除けにしながら機材の組み立てを行う。5分ほどで完了。カメラを向けて彗星が昇ってくるのを待った。時間を見ながら、撮影開始。5時過ぎには尾が昇ってきて、300mmでも撮影開始。中々いい感じに撮影できて、満足して帰宅した。帰宅後に急いで処理をしてブログにアップした。ついでに、NHKのローカル番組にも写真を送っておいた。あとで放送されて、結構見ている人が多いのだと感心した。

その後、27，29，30日と撮影し、最後は10月1日だった。日ごとに尾が伸びて明るくなっていく様子が分かる。尾が昇ってくるのが肉眼でも見えるほどだ。双眼鏡ではきれいに伸びる尾がしっかりと分かった。

9 月 30 日

さて、この原稿を書いている10月9日現在、夕方の彗星の姿は撮影できない。明日以降次第に見えてくるはずだが、さてどうだろうか？SOHOのLASCO　C3の画像ではとても明るくなっている様子が見えている。南半球の画像を見ると期待が膨らむが、あんまり期待しすぎるとぽしゃるという彗星あるあるが怖いな。

Ｂ５のたわごと

いや～、９月は本当に暑かったですね。平年の９月の平均気温は25.2℃ですが、先月の平均は29.1℃と、４℃も高かったそう。お陰で彼岸花の芽が出てこず、家の彼岸花は５日にやっと花芽が出ました。小国の方では９月前半には咲いたと教えてもらっていたので、暑さで枯れた？と思ってましたよ。植物にも過酷な夏だったんですね。野菜が高い訳です。お米も高いままですし、上がらないのは給与だけですなぁ。さて、Ｃ／２０２３Ａ３紫金山・アトラス彗星には、期待を裏切らない明るさになってほしいですね。

☆１１月の天文現象＆行事☆

１日（金）　新月（２１：４７）

２日（土）　ケンタウルス座Ｔ星が極大（5.6～8.4等　周期181日）

５日（火）　細い月と金星が並ぶ

７日（木）　立冬（りっとう・・・ 冬の始まりで、これより次第に冷気深くなる）

８日（金）　月面Ｘが見える（２２：０３）

９日（土）　上弦（１４：５５）　　トークアバウト（２０：００～　変更の場合あり）

１１日（月）　月と土星が接近

１２日（火）　おうし座北流星群が極大

１４日（木）　月の距離が最近（360109km）

１６日（土）　満月（０６：２９）　水星が東方最大離角（17:09　-0.3等　視直径6.6″）

１７日（日）　天王星が衝（13:14　5.6等　視直径3.8″）　　しし座流星群が極大

２０日（水）　明け方、月と火星が接近

２２日（金）　小雪（しょうせつ・・・ 寒気つのり、雨凍って雪となるという意味）

２３日（土）　さんかく座Ｒ星が極大（5.4～12.6等　周期267日）　下弦（１０：２８）

２６日（火）　月の距離が最遠（405314km）

特定非営利活動法人熊本県民天文台機関誌　「星屑」　2024年11月号　通巻596号
発行所　　熊本県民天文台事務局　　〒８６１－４２２６
熊本県熊本市南区城南町塚原２０１６番地　　熊本県民天文台
ＴＥＬ　　０９６４－２８－６０６０
振替口座　０１７００－５－１０５６９７
ＮＰＯ熊本県民天文台事務局
天文台ホームページ http://www.kcao.jp/　　メールアドレス　astro@kcao.jp
メーリングリストの加入申し込み受付中　kcaohige2003@yahoo.co.jp 中島まで